

京都市南区基本計画策定委員会第1回会議 議事録

日 時：令和元年9月27日（金）9：30～12：00

場 所：南区役所A会議室

出席者：

氏 名	所 属	備 考
天野 広一	南区自治連合会（唐橋学区（中学区）），南区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会，南少年補導委員会	委員長
田中 一明	南区自治連合会（九条学区（東学区）），南区社会福祉協議会	
野村 良博	南区自治連合会（吉祥院学区（西学区）），南区共同募金会	
山田 信之	日本新薬株式会社総務部渉外担当部長（南区まちづくり推進会議）	
山田 正志	京都中小企業家同友会南支部	
矢田貝 宏美	市民公募委員	
植松 明彦	市民公募委員	
小野 恭裕	京都市立塔南高等学校校長	
石原 凌河	龍谷大学政策学部准教授	

1 開 会

2 挨 拶

委員長 天野 広一
南区長 古川 真文

3 議 題

(1) 委員・事務局の自己紹介

(2) 資料説明

(3) 意見交換

天野委員長

統計データのP3，人口動態に関して，京都市では平成19年，20年，南区は平成22年で人口が大きく減少しているのはなぜか。

事務局

思い当たる事象は特にない。

小野委員

資料 5 の P29, 新普通科系高校の創設に関して, 塔南高校の開校予定は令和 5 年 4 月が開校の予定となっている。

山田委員

人口や出生数は増加しているが, 小学校の児童数が少なくなっているのはなぜか。

事務局

統計データの P2 の人口ピラミッドにおいて, 小学校に上がる前の 0~4 歳の比率が高くなっており出生数は増加している。

植松委員

なぜ南区は人口が増加しているのか。

事務局

理由の一つとして住宅の着工戸数が増加していることが挙げられる。若い世代が住宅を取得しやすいのではないか。合わせて, 仕事がなければ人口は増えないため, 会社や事業所数が多いことも考えられる。

田中委員

国道 1 号線から西の方は宅地として使える土地があり, 交通の便も良い。近鉄にしても JR にしても駅が多いことも影響しているのではないか。ただ, 自分が住んでいる九条学区の減少率がショックで実体験としてもそのように感じている。空き家も民泊に変わっている。

古川委員

畑が宅地に転用されてるなど, 転用の余地があることも特徴の一つである。畑がなくなっていくことは寂しくはあるが, 特に九条通りから南側が顕著である。一方で上鳥羽, 吉祥院, 久世あたりは農業が盛んな地域である。居住と農業の調和のとれたまちを目指すべきではないか。

野村委員

吉祥院学区では, 今年度, 新 1 年生が 10 人増えたが原因は分からない。工場が移転し宅地になったことで児童は多くなったのか。だが, 町内会でも 70 歳以上の高齢者が 55 名である。少子高齢化の時代ではあるが, 南区はまだまだ開発できる土地がある。農業の後継がいなくなり, 畑が宅地に大きく変わっている。

天野委員長

病院，開業医，ショッピングなどあらゆるものが揃っているわりに家賃が安いことが特徴である。

石原委員

人口が増加していることはいいことだが，工場がなくなることによって税収は減少する。住工混在の雰囲気なくなることも議論が必要である。また，農地が宅地に転用され農地が減少することでおいしい京野菜といった南区らしさが薄れつつあるのではないかな。

南区の中でも地区別の特徴，違いを見せることが必要ではないかな。

天野委員長

ふるさと納税の人気はあるのか。

事務局

一時期は京都市民からも寄付が受け付けられる形ではあったが，内閣府の方針が変わりなくなった。

野村委員

工場がなくなることによって税収が減ることは分かるが，会社が多少減っても人口が増え地域の活気が高まる方が良い。

石原委員

南区以外にも，集合住宅の住民が町内会に加入しないという問題がある。人口が増加することはいいことではあるが，地域のコミュニティに馴染む人に来てもらうほうが望ましい。コミュニティの問題も気になる。

天野委員長

南区は下京区から分区したため，下京区には京都中央郵便局や下京税務署があるが南区にはないため，各施設に行くために時間がかかる。また，他区は多くの学区があるため小中一貫校を開設するにも大変な状況であるが，南区は15学区とまとまりが良い。

南区には大学がないが一つもないため，一番近い龍谷大学にはずいぶん協力してもらっている。

石原委員

全体の総論，南区の未来像，基本計画の在り方から共通認識を議論したうえで各論に話

を進めていきたい。

事務局からの説明からレジリエンスという言葉が出て、レジリエンスの理念は大事であるが、市民さんには浸透していない。あえてその言葉を使うべきなのか。レジリエンスだけでなくエコシステム、ソーシャルイノベーション、モビリティマネジメントなど、非常にカタカナ言葉が多く、プラスチックワードともいわれる。それをわざわざ説明までつけた上で、基本計画に盛り込むのはどうなのか。分かりやすい言葉遣いで置き換えることが求められる。南区だけの議論では変更できないのは承知しているが、言葉は本当に分かりやすいほうがいいのではないかと確認しておきたい。

田中委員

私も同意する。キーワードを見た時や、区民の方々に説明する際に、カタカナが並んでいるのは読みやすいが中身が分からない。言葉の注釈をつけてまで使わないといけないのか。一方で使わざるを得ない言葉もある。

野村委員

私も 74 歳だが、カタカナ言葉には弱い。平仮名と漢字で構成していただいたほうが見やすい。

天野委員長

地域の高齢者が多い中で、横文字をやめてほしいとの声もある。ただ、ひらがなだけで説明すると分かりにくい時もある。

基本計画の 6 本の柱、地域力というところで、南区では南力＜みなみりょく＞という言葉を使っている。この言葉は活かしたい。

南区に水防団はなく、あるのは消防団だけである。秋や梅雨の時期にはたびたび川の水かさが増えているので、水防団が必要ではないか、あるいは消防団の中に水防の専門が必要ではないか。

保健福祉の分野では、行政の担当課の体系が複雑で縦割りになっている部分もあるため、役所内で全体の交通整理をしてくれるような窓口が必要ではないか。

石原委員

安心安全について、安心とは誰もが住みやすい環境のために、防災や公共交通、福祉を考えることである。そのため「安心」というキーワードがいろんな分野を包含するのではないか。現行の南区の未来像の中で、「安心」や「誰もが住みやすい」という部分が欠けていると思うので追加したらどうか。

天野委員長

町内会は、若い世代が入らないだけでなく、年金生活では町費が払えないという高齢者の声も聞く。

山田（正）委員

企業目線から話すと、南区の特徴は工場が多いが、現状として区民と企業とのつながりはほとんどない。隣の工場で何をしているのかを知らない区民が多いのではないかな。しかし、共存する中でお互いの顔が見える関係ができれば、もっと企業側も地域に対して様々な活動に参加できると思う。

また、企業には力がある。災害時などの企業の力を地域のために活かす仕組みがあれば、地域としてもっと活性化につながると思う。例えば何かあったときに、避難を誘導する、備品を提供、防犯カメラの映像を提供など。

天野委員長

中小企業同好会にはあらゆる業種の会社や関係者がいるので、協力いただければと思う。

山田（信）委員

地域との関わりを強くするためにコミュニケーションをとっていくことから始めていく必要がある。

また、基本計画のその後に向けて、何を目指しているのかが分からない。理想も踏まえて書かなければ、どこで作っても同じものになってしまう。

天野委員長

将来的に南区がどうあるべきか。こんな南区になりたいという大きな目標が必要である。

矢田貝委員

美しい街—南区について。結婚するまで大阪で育ってきて、その後、右京区から南区に引っ越しを決めた。そのきっかけは昔から長く住んでいる人が多いことである。

空き家が増えており、空き家が増えると民泊が増える。最近のごみ問題がひどい。海外からの観光客が多いのはいいことだが、家の前のごみ捨て場に民泊の宿泊者がごみを勝手に捨てていくことで、カラスがゴミ捨て場に集まるといった問題も生じている。

東寺駅の前に新しくホテルが建設され始めている。町内で懸念していたが、ホテルに対して反対することはできなかった。観光によって昔から住んでいるお年寄りたちがないがしろにされている状況を変えたい。また、最近では海外からの観光客が登校中の児童を勝手に写真に撮っていたりするので、SNSに勝手に流されたらと懸念している。

天野委員長

写真禁止の張り紙を張るなど対策が必要である。旅行者のマナー問題は国レベルの話ではあるが、地域で考える必要もある。

田中委員

南区に関わってきて、区民が誇りを持っていると感じており、区に対する誇りや愛着を伸ばしていくことも大事だと感じている。

石原委員

南区民の多くが南区のことを誇りに思っている。区民の誇り、愛着を伸ばしていければ良い。

天野委員長

例えば各学区で自分の学区の自慢を出し合って、それをネットワークすることで美味しいものを巡るグルメコースだとか歴史を巡る経済産業コースといったあらたな観光資源になるのではないかな。

南区には5つの中学校がありそれぞれ個性があり生活環境や育った環境も異なる。低学年と高学年の交流も盛んで、例えば久世中学校では地元の保育園児・幼稚園児と一緒に遊ぶ機会があり、小さい子を育てるという感覚が育ってきている。

山田（正）委員

良いところを伸ばしていくというところに同意するが、何が良いところなのか明確にすることが大事であり、11月に石原先生が登壇する「みなみなみなみ」の討論の中で南区のいいところや自分の地域の自慢などを出し合って文章化し、基本計画に加味していけばいいのではないかな。

事務局

基本計画のゴールについて、3つの理想像の中から南区はこうなってほしいという意見をいただきたい。

山田（信）委員

理想としては、地域力を維持するために子供も含めてずっとそこに住んでもらうこと。

天野委員長

お年寄りと子供が元気なまちを目指すこと。お年寄りと子どもと一緒に歩いてるようなふんわりとした雰囲気のマチになればいいと思う。

野村委員

地域がどんどん小さくなっている。運動会に出る人も少なくなっている。地域全体に元気がない。子供も大人も含めて元気なのが理想である。

石原委員

外部からの目線では、京都市の中で南区のイメージがあまりない。近くの龍谷大学の学生でさえもイメージを持ってない。せっかくだいいまちなので、外からのイメージがもっと良くなればいいのではないかな。

天野委員長

宣伝するところは多い。イコール堀場製作所、GS ユアサといった世界的企業が立地している。イオンが一つの行政区内に3つもあるのは珍しい。交通の便もいい。国道は3本、鉄道は、JR、阪急、近鉄が通っている。

山田（正）委員

基本計画の理念として「安心」「継続」を入れ込んだキャチコピーがあればいいのではないかな。例えば、「安心で幸せになれる南区へ」など。

小野委員

「南力」のキーワードに関して、次の世代に伝えていくことが大事である。例えば、創業者社長の思いとか、チャレンジ精神とか、良さや思いを交流できるようになれば良い。また、お年寄りになっても、それぞれの果たせる役割があればいいと思う。

公共交通の差が激しいので、高齢者が免許返納した後でも安心して暮らせる交通手段も必要である。

天野委員長

区民による一斉清掃は効果を上げており、取り組みが浸透している。

みなみーずの活動を広げていく。

京都市（本庁）とのつながりを強化していく。

植松委員

南区はよく言えば若い世代に選んでもらっている。その若い世代に向けて良いところを伸ばしていくということが、将来の南区らしさにつながっていくのではないかな。

基本計画は区民の中で知っている人は少ないと思う。知ってもらい、区民を巻き込む努力、そのような仕掛けも大事である。そのプロセスの中で、区民が自分事としてまちづくりに参加することにつながっていく。

(4) 事務連絡

第2回委員会は12月又は来年1月を予定しているので、また事務局から日程を調整させていただく。

4 閉 会